令和６年度生ごみ堆肥化機材助成者に対するアンケート結果総括
（令和５年度の助成利用者を対象に実施）

１　世帯状況

居住環境について、電動処理機では「一戸建て」が約６割、「集合住宅」が約４割だったのに対し、堆肥化器材では「一戸建て」が約９割、「集合住宅」が約１割となっている。電動処理機、堆肥化器材ともに１～４人世帯で９割を超えるが、堆肥化器材では特に「２人世帯」が 43%と高い割合を示した。

使用者の性別としては、電動処理機では女性 84%、男性 16%であり、女性の割合が非常に高かったが、堆肥化器材では女性 56%、男性 44%と同程度の割合であった。使用者の年齢層は、電動処理機が「20 歳代」から「70 歳代以上」と幅広い年齢層で使用されており、特に「40 歳代（31%）」と「50 歳代（28%）」が多かった。一方、堆肥化器材は「50 歳代」から「70 歳代以上」で多く、特に「70 歳代以上（36%）」が多い結果となった。

２　助成制度等の情報の取得及び動機

○助成制度等の情報の取得について

いずれも「札幌市ホームページ」と「広報さっぽろ」という公的な情報の割合が大きかった。また、「広報さっぽろ」においては電動処理機で 50%であるのに対し、堆肥化器材で 65%であることや、「札幌市ホームページ」においては電動処理機で 39%であるのに対し、堆肥化器材で 22%となっており、使用者の年代での利用する情報媒体の違いも影響しているものと思われる。

○使用を始めた理由（複数回答可）について

電動処理機は「生ごみを減らしたい（65%）」「臭いを減らしたい（75%）」が多く、堆肥化器材は「堆肥として再利用（86%）」「生ごみを減らしたい（71%）」が多く選択された。

３　堆肥化の状況

○現在の堆肥化（減量）の取組状況について

電動処理機では現在も堆肥化（減量）に取り組んでいる人の割合が 64%であったのに対し、堆肥化器材は 94%と、堆肥化器材の方が取組を継続している人の割合が高かった。

○生ごみの減量効果について

前問の「取り組んでいる方」に対して、生ごみがどの程度減ったと感じているかについて質問。電動処理機は「半分程度減った」が 33%、「7 割以上減った」「出さなくなった」が 29%。堆肥化器材は「半分程度減った」が 31%、「7 割以上減った」「出さなくなった」が 40%と、堆肥化器材の方が生ごみの減った割合が高い結果となったが、いずれも６割以上が「半分以上減った」と感じている。

〇堆肥の活用について

堆肥の主な活用先としては、電動処理機の 40%、堆肥化器材の 96%が「自宅や市民農園」と回答した。なお、電動処理機では「ごみとして廃棄（40%）」も一定の割合を占めているが、そのうち居住環境が集合住宅である人の割合が６割程度であったことから、家庭で活用することが難しい実態を反映しているものと思われる。

〇堆肥化の情報の取得（複数回答可）について

電動処理機、堆肥化器材ともに「札幌市ホームページ」「札幌市以外のホームページ」「本や雑誌」が多く、堆肥化器材では「生ごみ堆肥化セミナー（17%）」も一定の割合を占めていた。

〇堆肥化の今後の継続意思について

電動処理機は「今後も継続」が 60%、「冬期間は中断するが来春から再開」が 16%となり、今後も継続する割合は計 75%となった。

堆肥化器材は「今後も継続」が 55%、「冬期は中断するが来春から再開」が 42%と、設置場所の影響もあるせいか内訳に差が見られるものの、今後も継続する割合は計 97%となった。

〇堆肥化に取り組んでいて困っている点や現在取り組んでいない、もしくは継続は難しい理由（複数回答可）について

電動処理機は「電気代がかかる（29%）」が多く、昨今の電気料金の値上げが影響しているものと思われる。ほか「堆肥の使い道がない（28%）」「臭いが気になる（15%）」「手間がかかる（15%）」も一定の割合を占めていた。

堆肥化器材では「冬期間の処理に困る（38%）」「虫が気になる（36%）」「臭いが気になる（28%）」が多く選択された。

〇生ごみ堆肥化セミナーについて

生ごみ堆肥化セミナーについて、電動処理機においては 25%の認知度があるものの、「参加したことがある」は 1%であった。

一方、堆肥化器材では 63%の認知度があり、「参加したことがある」も 25%と多かった。

〇生ごみ堆肥化相談窓口について

電動処理機は認知度が 11%で「利用したことがある」については 0%であった。

一方、堆肥化器材では 34%の認知度があり、「利用したことがある」は 6%であった。